

今年度、コロナ禍を経て久しぶりに対面開催したところ、学校医・学校歯科医・学校薬剤師の先生方、教職員、保護者など約50名の皆様に参加してくださいました。当日は、養護教諭から「保健室から見える子どもたちの様子」について話題提供した後、スクールカウンセラー大平雅美先生より、最近の子どもたちの気になることや子どもとの関わり方などについてご講演をいただきました。また、講演では大人も子どもも、毎日を楽しく過ごせる秘訣を教えてください、大変有意義な研修会となりました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。



講演「おうちで子どもをどう支える?〜子どもへの声かけを考えてみよう〜」

滋賀県・大津市スクールカウンセラー 大平雅美先生



1. 最近の子どもたちの気になる姿

- 〈小学生〉 完璧主義で自己肯定感が低い
→失敗したくない。物事に取りかかれない。
- 〈中学生〉 一人になることを嫌う。
→ノリに合わせる。空気を読むことに必死。
- ・自分で決められない・失敗したら人のせいにする
- ・現代は、自己肯定感が育ちにくい環境かもしれない
- ・同じ物を見て共感することが少なくなっている
- ・物を共有しなくてもよい・刺激に慣れすぎている
- ・家の中でも子どもの姿がよく見えない

～各自スマホの時代の子どもたち～

- ・みんなで一緒にいても、違うものを見ている
- ・選択肢が多く、好きなものが人とかぶらない
→共有しない、順番を待たなくてもよい
- ・いつでも手にできるので、暇な時間がない
→ぼーっとおしゃべりする時間がない
- ・刺激に慣れすぎて、自ら創造して遊べない
→当然もつはずの好奇心より YouTube に関心



2. ワークショップ

①自分の子どもの最近はまっていること、興味を持っていること、好きな遊びなどについて詳しく書いてみよう
～どのくらい子どものことについて知っていますか～

②登校前、親子の会話より ～子どもが機嫌よく登校し過ごすために～

- ・ふだん、たわいのない話をどれくらいできるかが大切
- ・たわいのない話の中に大切な話をまぜると、子どもも受とりやすくなる
- ・子どもがやっていることがわからない時は、「心配しているよ。」とこちらの気持ちを伝える
- ・大人の都合で振り回さない。一緒に過ごして話してくれるのを待つことが大切
否定も非難もされない安心感のなかで、何かを一緒にやりながら
- ・子どもへのアドバイスは、いろいろ言われるより大切なことを短く伝える



3. 子どもを支えるには

- ・親からの声かけは、子どもの話を聞くためのきっかけ
- ・アドバイスや叱責でなく、共感！ 同じように楽しむ、驚く、喜ぶ、悲しむ

4. 親のイライラを減らすには

- ・自分のことは自分で精神！家族でやってあげ過ぎない
- ・自分のイライラは、自分で発散する



～自己肯定感が育ちにくい環境にある子どもの変化に気づき、子どもを支えるには～

○しゃべりたいときにしゃべらない子どもに、しゃべってくれる環境をつくる

- ・いっしょにのんびり過ごす時間や何かを一緒にする時間を持つ
- ・親のイライラをぶつせず、余裕をもって声をかけ、否定・非難を避け、安心感を持たせる
- ・日ごろ接することができる短い貴重な時間を有効に使う

○親からの声かけは、子どもから話を聞くためのきっかけ

- ・早わかりしすぎず、子ども自身にことばにしてもらう
- ・子どもが話を続けやすい相槌を打ちながらアドバイスや叱責よりもまず共感する
(同じように喜ぶ・驚く・悲しむ…)
- ・自分のことは自分で精神で、家族にあれこれやってあげ過ぎない



ご参加いただいた皆様から、「すごくわかりやすいお話で、あっという間に時間が過ぎました。」「参考になる内容で前向きな気持ちになれた。共感するというのを心におきながら子育てを楽しみたい。」「今から、日々のコミュニケーションをしっかりと、子どもと同じもの共有していきたい。」などの感想をいただきました。また、寒いなか、駐車場や受付などのお手伝いいただきましたPTA役員の皆様、本当にありがとうございました。